

米国大統領選挙後の世界情勢と日米関係

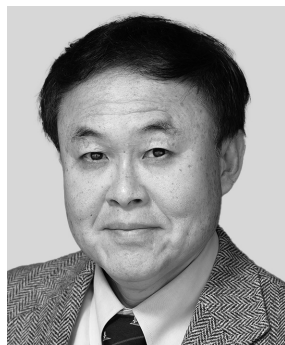
慶應義塾大学環境情報学部教授

渡

辺

靖

- *なぜ白人至上主義者と言われるのか
- *キーワードは「常識の革命」
- *トリプルレッドと言うが
- *マスクにはらむ政権内対立
- *トランプは王様になる？
- *「関税」は美しい言葉
- *搾取されているという恨み
- *日米関係に大きな懸案なし
- *台湾疑米派が抱く懸念
- *対中関係では日米の立場に差



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

トランプ大統領が就任されてから、連日いろいろな政策が出て世界の注目を浴びているわけですけれども、たいへんお忙しい中、現代アメリカを専門とされています慶應大学環境情報学部の渡辺靖先生に今日はお越しいただきました。

先生は、上智大学の外国語学部を卒業されて、それからハーバードで大学院の修士、博士課程を修了されて、社会人類学で博士号を取得されました。慶應に転じられて、現在の職をなさっていらっしゃるんです。先生はたくさん本を書かれて、いつもそのときそのときのことを状況を見ながら社会に発言されていますけれども、皆さんのお手元のプロフィールの中に書きましたのは最近のご著書で、一つは『アメリカとは何

か』という2022年に出た岩波新書のご本です。2020年には、中公新書で『白人ナショナリズム』という本が出ております。

この『白人ナショナリズム』に言及させていただくと、人類学のフィールドワークの手法を使われて、読むとちょっと驚きますけれども、直に白人ナショナリストの方の家に رفتたりインタビューしたり、それから重要なコンファレンスに出て真つ向議論されたりということを書かれている。非常にドキュメンタリータッチで書かれていて、非常にもっとも、その中で白人ナショナリストの論理とか感情とか心理、それから彼らの持っている世界観とは何なのかということとを分析されて、このご本にまとめられています。